

企業と社会と学生が交差するマガジン

**cross**



**point**

vol.

**6**



## Sustainableな社会をつくろう

戦争、貧困、地球環境の破壊、食糧危機、資源枯渇。  
世界には今ある世界を損なうかもしれない問題がたくさんあります。  
世界がこれからどうなるのか。それは誰にもわかりません。  
さて。私たちの生活には、多くの企業が関わっています。  
食べ物や服をつくったり、列車を動かしたり、お金を管理したり。  
生活に深く関わる企業は、この世界に欠かせない存在です。  
Sustainableは、持続可能な、という意味の英単語。  
ともに世界を持続していく存在として、また将来そこで働くかもしれない場所として、  
企業にもっと注目してみましょう。



### Contents

- 4 企業インターワーク  
甲南高校「鶴」チームとローソンが実現  
地域の魅力を楽しく学ぶスタンプラリー
- 10 SDGs  
Green Ponta Action  
小さなアクションの積み重ねが持続可能な未来をつくる
- 14 Column  
小人がつくった靴の品質を保證できますか？

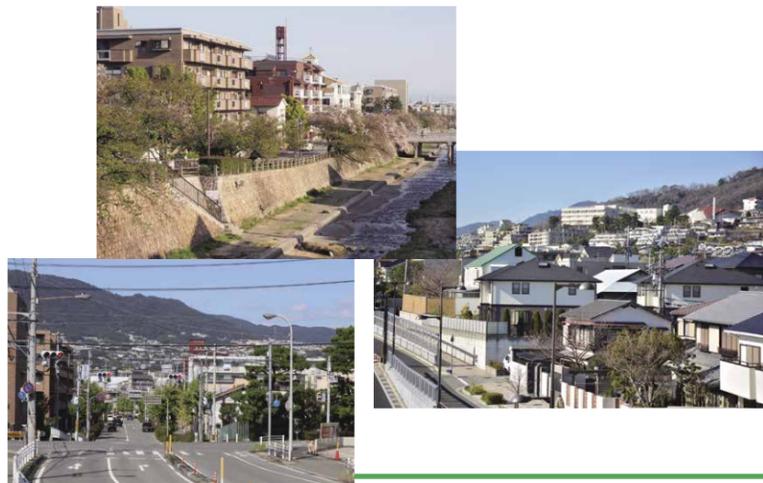
企業  
インターンワーク

甲南高校「鶴」チームとローソンが実現  
地域の魅力を楽しく学ぶスタンプラリー

「企業インターンワーク」<sup>※1</sup>は、中高生がインターンとなって企業の課題に取り組む学習プログラムです。2020年度、兵庫県芦屋市の甲南高等学校「鶴」チームは、株式会社ローソンのインターンとしてこのプログラムに参加しました。ローソンが出した課題は「マチの"ほっと"ステーションとしてさらに進化するために、自分たちの学校とローソンが協同して取り組む『小学生を笑顔にする社会貢

献活動』を企画・提案すること!」。この課題に対して「鶴」チームが提案した企画「鶴探し」は、ローソンから「地域活性化のきっかけになる非常に良い企画」との講評を得ました。そして2021年11月27日、なんと芦屋の街を舞台に「鶴探し」が実現することに! ローソン全面協力のもと、芦屋小学校の児童たちを迎えて、「鶴」チームの生徒たちが大活躍した1日をレポートします。

※1「企業インターンワーク」は株式会社トゥーフェイス・リサーチ・インスティテュートが中学校・高校・大学に提供している学習プログラムです。



Commentary : 兵庫県芦屋市

兵庫県の南東部、大阪と神戸のほぼ中間に位置する。北は六甲の山並み、南は大阪湾に面し、気候温かな自然環境と便利な交通環境など、生活条件に恵まれた住宅都市。明治38年に阪神芦屋駅、大正2年にJR芦屋駅が開業すると、風光明媚な別荘地として注目されるようになる。大正9年に阪急芦屋川駅が開業するとその動きが加速、別荘地・郊外住宅地が拡大し、豊かな緑と明るい南向き斜面を活かした邸宅街へと発展した。

企業インターン【ローソン】 甲南高等学校「鶴」チームの企画

鶴探し

【楽しみながら地域を知るスタンプラリー】

- 地域の魅力がわかる場所（世界遺産候補の建物など）を巡るコースを設定。コース内のチェックポイントを訪れるとポイントがもらえる。ポイントがたくさん貯まると、ゴール後に多くの景品がもらえる。
- ポイントチェックにはスマートフォンアプリを利用。コース内で訪れる場所の情報も表示し、楽しみながら地域の魅力に触れてもらう。
- 参加する小学生の安全確保のため、交通量の多い大通り等は避け、歩きスマホ防止機能をアプリにつける。
- チェックポイントやゴールにローソン店舗を組み込み、ローソンが「安心して楽しく過ごせる場所」であることを伝える。

【実施するにあたって改善・考慮が必要なポイント】

- 芦屋市以外の場所でも実施できるかの検証が必要
- ポイントチェックにスマートフォンの位置情報サービスを用いる場合、判定の誤りが起きかねない
- 企画の内容やルールを小学生がしっかり理解できるよう、詳しく丁寧な説明が必要



企画の実現に向けて、チームメンバーは先生方、ローソンの方々と一緒に改めて内容を見直し準備を進め、実施に至りました。



「鶴」というチーム名の由来は、メンバーの一人が折った折り鶴。それを見たリーダーが「チーム名は鶴だ!」と閃いたから、とのこと。企画名の「鶴探し」も、鳥の鶴に関係するわけではないそうです。

第11回トゥーフェイス・アワード全国大会は、新型コロナウイルス感染症拡大などの状況を踏まえ、オンラインで実施されました。

# 芦屋市の文化にふれあい、楽しく学ぼう 鶴探し

※イベントは感染症対策を講じたうえで開催しました。

肌寒い11月下旬の土曜日、JR芦屋駅前には暖かい服装に身を包んだ小学生たちが、続々と集まってきました。迎えるのは「鶴」チームのメンバー。いよいよ芦屋の街を実際に歩いて巡る「鶴探し」がスタートします。参加者はA・B・Cの3チームに分かれ、それぞれのチームに「鶴」チームメンバーが同行してチェックポイントへと案内します。



## Start!!

### JR 芦屋駅



Bチームと同行!

チェックポイントへ向けて歩いている最中も、メンバーが小学生たちに芦屋市やローソンに関するプチ知識を披露。身近な場所やお店に関係するお話にも、小学生たちは興味津々です。

### Check Point 1 打出橋



最初に訪れたのは、芦屋市内を流れる宮川にかかる打出橋。「打出橋」という名は、昔このあたりが「打出村」だったことに由来しますが、打出と言われて連想するのは、やはり「打ち出の小槌」。打出村にも、振るとなんでも願い事が叶う打ち出の小槌があったという伝説が残っています。



打出橋に到着すると、小学生たちにタブレット端末が手渡されます。そのタブレット端末でクイズに挑戦!クイズの内容は歩いている最中に聞いたプチ知識にまつわるもので、小学生たちはすいすいと答えていきます。答えを思い出せずに悩んでいる子には、メンバーがさり気なくヒントを出してサポート。

タブレット端末で答えるクイズは、メンバーがGoogleフォームで作成。誰でも無料で使えるアンケートツールで、スマートフォンがあればリアルタイムに回答状況を確認することもできます。便利なツールはどんどん活用!



ここで先に出発していたAチームと遭遇!



住宅街の片隅に、城の石垣のようなものが出現。ここにあるのは芦屋市の背後にそびえる六甲山から、大阪城をつくるために切り出され、大阪まで運ばれずに残ったものです。城に使う予定だったため、若狭小浜藩や因幡鳥取藩など築城に関係した藩の刻印が残っています。

### Check Point 3 富田碎花旧居

「兵庫県文化の父」と呼ばれる詩人、富田碎花の旧居。昭和9年から11年までは作家の谷崎潤一郎が住んでいました。母屋は昭和20年の阪神大空襲で焼失、昭和29年に再建されたものです。小学生たちは、現代の住居とは異なる「昔の家」の構造を珍しそうに見学。管理人の方へ積極的に質問をしていました。



AチームとBチーム  
合同で記念撮影



### Check Point 4 あしやウォールペインティング

芦屋市制施行50周年記念事業として実施されたウォールペインティング。一流アーティストから日曜画家まで、お年寄りから幼稚園児までさまざまな方が参加し、600メートルにおよぶ壁をカラフルに彩りました。



芦屋公園の片隅にある小さな石碑。怪物「鶴」を退治した伝説に基づき、昭和10年に建てられました。源頼政が京都で退治した鶴の遺骸を丸木舟に乗せて川に流したところ、淀川から大阪湾へ出て、芦屋の浜に漂着したのだとか。

### Check Point 5 ぬえ塚

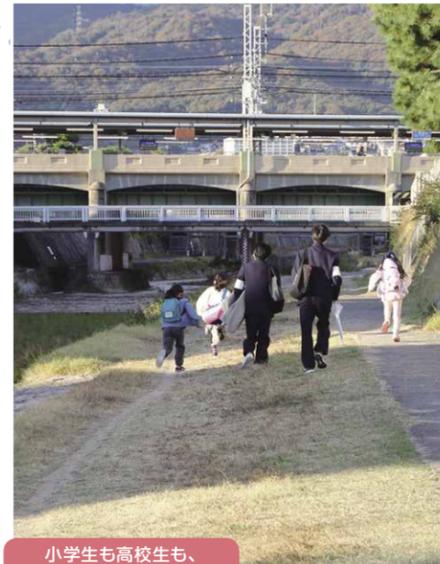


## Last Point

阪神・淡路大震災慰霊と復興のモニュメント



ぬえ塚を離れ芦屋公園内を歩いていくと、大きな石を組んだモニュメントが見えてきます。1995年、阪神・淡路大震災で犠牲となった市民を弔うとともに、震災の記憶と教訓を未来に継承するためにつくられました。芦屋市出身の俳人稲畑汀子氏による「震災に耐へし芦屋の 松涼し」という俳句が彫られています。



小学生も高校生も、ゴールへ向かってダッシュ!

走っているのは芦屋川の河川敷。奥に見えるのは阪神電鉄芦屋駅のホームとなっている、芦屋川橋梁。



## Goal!!

ローソン 芦屋川西店\*

「鶴探し」を終えた小学生たちは、最後にローソンの店舗へ。ここで景品のお菓子をもらいます。それもただお菓子を受け取るのではなく、ローソン店舗での職業体験付き!お借りした制服を着て順番にレジ内に入り、ほかの参加者が選んだお菓子のバーコードを読み取り、お会計。初めての体験に大喜びの小学生たちは、長い距離を歩ききった後とは思えないほど元気いっぱいでした。

\* A・Cチームのルートは、「ローソン宮川店」にゴールしました。



## After 「鶴探し」 Voice

### 企画に参加した小学生

「今日までずっと楽しみにしていました。本当に楽しかった!!」  
「ローソンのユニフォームを着て、アルバイトの体験ができてワクワクした」  
「クイズがおもしろくて、全問正解できた。賞状ももらえてうれしかった!」

### 甲南高校「鶴」チームメンバー

「たくさんの打ち合わせや準備に協力して下さったローソンのみなさんや、先生方、トゥワイス・プランの方々に本当に感謝しています」  
「子どもたちの笑顔を見て、この企画をやって本当に良かったと実感しました」

「企画の立案から実行まで、大変だったこともありましたが、メンバーに支えられて実現できました。今となってはすべて良い思い出になっています」  
「表面的なところだけではなく、中身の深掘りや臨機応変な対応も含めていろいろと考える経験ができてとても良かったです」  
「小学生の笑顔や元気に歩く姿を見て、長く大変な準備期間もすべて報われました」  
「無事に終わって良かったです。チームの良いところをお互いに活かせるようになったことは、僕たちの成長にもつながりました。本当にとても楽しかったです」

### 甲南高校の先生方

「私自身もとても楽しむことができました。芦屋市にはこんな

にもたくさんの魅力があるんだなど、歩いてみて初めて知るものばかりでした」  
「街歩きでは歩道が広いところを歩くようにしたり、小学生が楽しく学べるクイズが用意されていたりと、生徒たちは参加者のことをよく想像して相応な準備を重ねてきたことがわかりました」



### 企画に協力してくれたローソンの方々

「参加した小学生たちがずっと楽しそうにしているのが印象的でした。この企画は学びにもなるし、地域愛が育つものだと思います」  
「生徒たちは、クイズのヒントになるような芦屋のポイントや知識も全部頭に入っていて、信号待ちなどのちょっとした時間に小学生にその話をしていました。それだけでもすごいのに、『ローソンの牛乳のロゴって、なんであれなの?』といった質問にもすぐに答えていて、知識の広さや対応力にとっても驚きました」

## 小さなアクションの積み重ねが 持続可能な未来をつくる

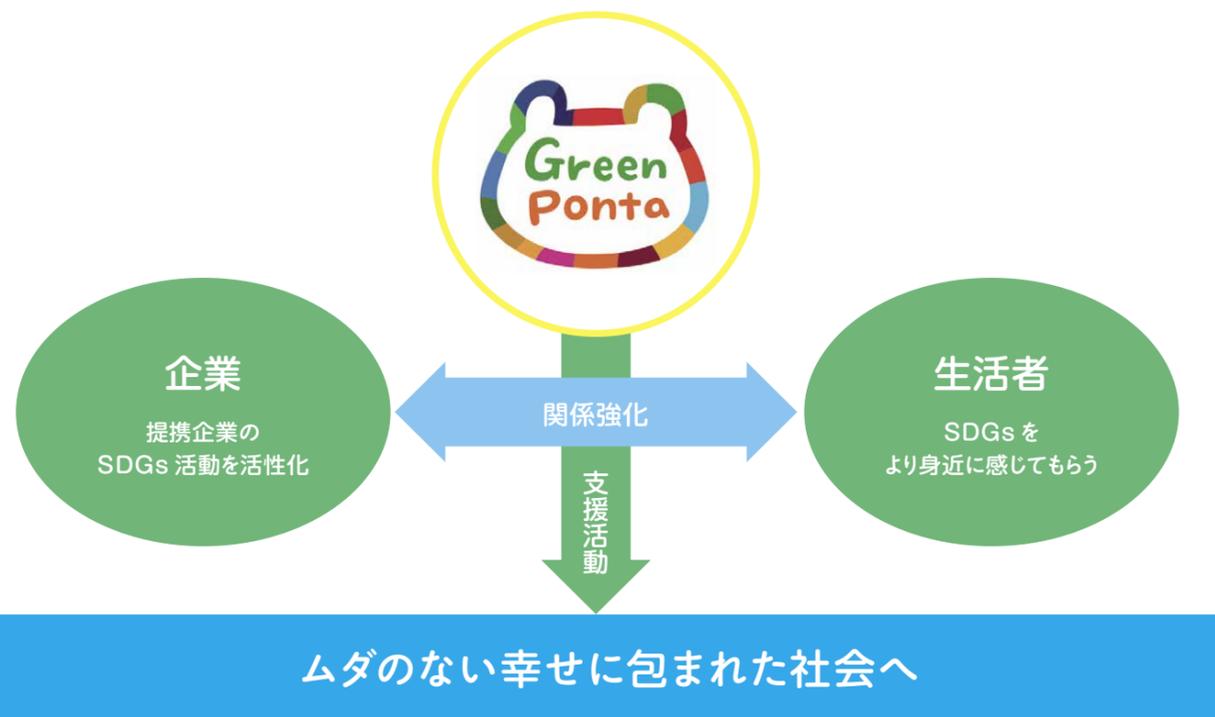
2015年に国連サミットで採択されて以来、「SDGs」という言葉は、目にしない日がないほどに広がりました。その一方で、具体的には何を意味しているのかイマイチよくわからない、という声も聞きます。まずは基本情報から確認してみましょう。

SDGsとは「Sustainable Development Goals =持続可能な開発目標」の略で、国連加盟193カ国が2016年から2030年までの15年間で達成するために17の大きな目標と、そこへ導くための具体的な169のターゲットで構成されています。なんだか難しそうだし、自分にできることはなさそう……と思っていたら大間違い。現在、日本国内だけでも多くの企業がSDGs達成に意欲的に取り組んでおり、その中には毎日の買い物のような身近なところでSDGsを考えたり、貢献できる仕組みを提供している企業もあります。

例えば、株式会社ロイヤリティマーケティング（以下、LM）が展開する共通ポイントサービス「Ponta（ポント）」。毎日の暮らしの中ですっかり馴染みのサービスですが、ポイントで生活者と企業と市場をつなぎ、データを通じて、企業が生活者に対して適切な

商品やサービスを適切な分だけ届けられるよう、さまざまな支援を行っています。そのネットワークを活かし、SDGsに取り組む企業と1億人を超えるPonta会員をつなぐことができれば、SDGsの輪がどんどん広がって、みんながハッピーに暮らせる社会になっていくのではないかと。「Green Ponta Project」は、そんな未来の姿に近づくために、みんなを継続的につなぐことを目指して立ち上げられました。

Green Pontaが目指すのは、企業と生活者をつなぎ、無駄のない社会＝サステイナブルな暮らしを実現することです。無駄な消費を社会から省くことができれば、社会のさまざまなムダがなくなります。それは、地球環境の保守・保全などの社会課題を解決し、グリーンでクリーンな地球を維持・存続させることにつながっていくはず。そんな幸せの循環を巻き起こし、誰もが晴れやかな笑顔で暮らせる社会に変えていきたい。将来を担う子どもたちに対する支援やSDGs活動を通じて、楽しくてシンプルに続けられるサステイナブルな暮らし。それがGreen Pontaのビジョンです。



## Green Ponta 3つの取り組み

### Activities 1

#### ムダをなくす活動

世の中のあらゆるムダを省き、地球を守り、育み、クリーンに。

#### 使い捨てのムダをなくす 「マイ・アイテム」推進活動

割り箸やレジ袋、飲み終わった後のペットボトルなど、普段何気なく使っているアイテムを“マイアイテム”に変えて使い捨てのムダをなくし、プラスチックやCO<sub>2</sub>の発生を削減。きっかけの一つとして、ポイントで交換できるPontaオリジナル“マイアイテムグッズ”を用意。



#### 提携企業をサポート

簡易清掃等、環境保全に配慮した取り組みを行っているホテル利用でポイントを加算したり、店舗でマイバッグ推進活動を行っている企業をサポート。



### Activities 2

#### サステイナブルな参加

お買い物で貯めたPontaポイントを通じて、社会貢献に参加。

#### Pontaポイント寄付

食糧支援や動物保護、子どもたちの未来を豊かにする教育支援など、SDGsの17の目標達成に貢献する活動・団体に1ポイント=1円換算で寄付ができる。



### Activities 3

#### 人と地球を継承する活動

地球の未来を見据えて、ムダをなくす人の意識の喚起へ。

#### Green Ponta 課外授業

一人でも多くの人の心の中に「ムダをなくす」というタネをまき、育んでもらうことを目指して、さまざまな団体と活動を展開。



#### 牛乳パックを使ったエコ工作キット

飲み終わった牛乳パックを使ったエコランタンやウインターリース作りを提案。楽しみながら資源について考えるきっかけを提供。



# 今日することで、未来を変えてゆく 楽しみながらアクションを続けられる Green Ponta Action

LM が SDGs に対する意識調査やグループインタビューを行ったところ、多くの人が「気候変動」などの社会課題に関心があり、「異常気象」に危機感を募らせている人は 78% に達しました。こうした社会課題に対して「現在行動している」と答えた人は 17% に過ぎませんが、41% の人が「今後行動したい」と回答。社会課題に取り組みたいと思いつつも、一歩を踏み出せずにいる人が多いことがわかります。

そんな人々の思いに応えるには、日常生活の中で手軽にできる行動を提示するとともに、そこから得られる成果をわかりやすく伝えることが重要です。そこで、ゲーム感覚で楽しみながら SDGs に関するアクションを続けられるスマートフォンアプリ「Green Ponta Action」を開発、配信をスタートさせました。このアプリでは、「知る」「買う」「あるく」「宣言する」など日常

生活の中にあるアクションを通じてスコアを貯め、楽しみながらアクションを続けることができます。例えば「宣言する」は「マイボトルを持ち歩く」など、その日に自分が取り組む SDGs アクションを宣言する機能。「買う」ではこの取り組みに賛同する企業が提供するサステナブルな商品を買うことでスコアを貯められます。そして LM は、月ごとに設定したユーザー全体の目標の達成数に応じ

て、CO<sub>2</sub> などの温室効果ガスの排出削減や環境保全など、社会課題の解決に取り組む団体などへ寄付を行います。「Green Ponta Action」を通じて SDGs の達成に向けたさまざまな活動を応援できるよう、現在もコンテンツの拡充を進めています。1 億人を超える Ponta 会員を軸に、未来を大切に思うアクションが広がっていくことが期待されています。



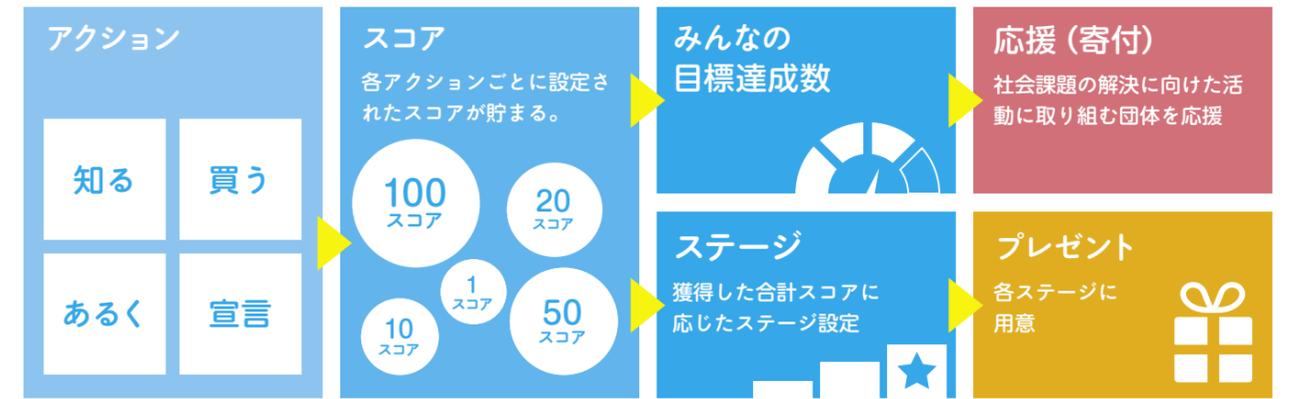
**知る**  
サステナブルな社会に向けた活動・事業を行う方々の思いや取り組みを紹介。

**天気**  
ユーザーの居住地の天気予報と最高気温と合わせて、30 年前の同日の最高気温を表示。地球環境の変化を感じるきっかけに。

**宣言する**  
その日に取り組むアクションをアプリ内で宣言することでスコアが貯まる。

**あるく**  
低炭素な移動手段の「あるく」。毎日の歩数をカウント。

## Green Ponta Action の仕組み ～一人ひとりのアクションが地球環境を守る大きな力に！～



- ①アクション**  
地球のために行動したい思いを、「知る」「買う」「あるく」「宣言する」など身近なところから実行。取り組むことでスコアを貯めることができます。
- ②ステージ**  
貯めたスコアに応じてステージが 1～18 まで上がり、Ponta ポイントが貯まったり、アプリで使用するアバターの種類が増えるなどの特典が得られます。
- ③応援(寄付)**  
月ごとに設定したユーザー全体の目標の達成数に応じて、社会課題の解決に向けた活動に取り組む団体へ寄付を行います。

### 豊かな環境を未来に残す「Ponta の森」

後世の子どもたちにより緑豊かな地球を残したい。そんな思いから Green Ponta では、一般財団法人 more trees (モア・トゥリーズ) と協働し、「Ponta の森」を育てる計画を進めています。more trees は、音楽家・坂本龍一氏が代表を務める森林保全団体で、地域との協働で森林保全を行う「more trees の森」の展開をはじめ、国産材を活用した商品やサービスの企画・開発、セミナーやイベント

を通じた森の情報や魅力発信などを実施。「都市と森をつなぐ」をキーワードに、森と人がずっとともに生きる社会を目指した取り組みを行っています。「Ponta の森」が育まれるのは北海道美幌町。未来について考え、アクションし続けることのシンボルとして植林活動を行い、見守られ愛される森として育てていきます。



## 小人がつくった靴の品質を保証できますか？

グリム童話に「小人の靴屋」というお話があります。むかしむかし、あるところに真面目ですが貧しい靴屋がいました。貧しくて靴をつくる材料も買えず、手元にはあと一足分の革しか残っていません。靴屋は朝になったら最後の靴を仕立てようと、机の上に革や道具を揃えてから眠りにつきました。ところが翌朝、机の上にはできあがった靴がちょこんと置いてあったのです。驚いて手に取ると、縫い目も形も完璧な仕上がり。その靴を店に出したところ、やってきたお客さんはとても気に入って普段よりもずっと高い金額で買ってくれました。靴屋はそのお金で2足分の靴の材料を購入し、机の上に置いておきました。すると翌朝、素晴らしい2足の靴ができあがっていたのです。こんなことが毎日続き、靴屋は次第にお金持ちになっていきました。お話はその後、不思議に思った靴屋と奥さんが深夜に仕事場を覗いて靴づくりをする小人を見つけ、これまでのお礼にと小人用の服と靴をプレゼントしたところ、小人たちは喜んで踊りながら外へ出て行き二度とあられませんでした、という結末を迎えます。小人はどこから来てどこへ行ったのかなど、気になる謎も残るお話ですが、ここで注目したいのは『小人がつくった靴』です。靴屋は完璧な仕上がりだと認め、店頭に出してお客さんに売ってしまいましたが、それで本当に良いのでしょうか。誰も見ていない深夜に、どこで技術習得したかもわからない小人がつくった靴。もしもちゃんと接着されていない箇所があって壊れたりしたら、靴屋は責任を取ってくれるのでしょうか。もしもこれが現代企業の話だったとすれば、「品質保証」の点で大きな問題があることになります。企業には製造販売する製品に対して、安全性をはじめとする品質を保つ義務があるからです。だからこそ、いつでも高い品質の製品をつくるために、企業は予め製品の作り方やチェック方法を細かく決めておくのです。決めた通りにつくらない場合は、ニュース報道でたびたび目にする「品質データの改ざん」「偽装検査」などの企業不祥事につながります。寝ている間に小人が仕事をしてくれる。なんとも羨ましい話ではありますが、その仕事の責任を結局は自分が取らねばならないと考えると、そうそう上手い話でもないのかもしれない。どこかへ消えてしまった小人に、「靴が壊れたせいでお客さんが怪我をしたから、責任を取ってくれ」なんて言うことはできないのですから。



### cross point

2022年04月

発行  
株式会社サステナビリティ・コミュニケーション・ハブ  
東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル6階  
Tel. 03-3513-0850  
Fax.03-5227-6746

株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート  
東京都中央区日本橋箱崎町1-11-804  
Tel. 03-6861-3553  
Fax.03-6861-3554

■本誌内情報は別途記載がない限り、2022年3月現在のものとなります。  
■本誌掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。